

ひらやま二号

* 今月は見守り隊感謝集会でのお礼作文と新聞掲載作品です。
どうぞご覧ください。

「見守り隊のみなさんへ」

六年 呂玉 希神

家を出る時に「あ、行くことがきついな」と思いながら行く時があります。

しかし、そんな時に見守り隊の方の元気なあいさつや声かけでぼくは元気になります。晴れの日も雨の日もぼくたちが学校に行く時や帰る時に、みんなが安全に登下校できるようにサポートしてくれてありがとうございます。こんなに私たちの安全を守つてくれているのに、見守り隊のみなさんにあいさつをしない人がいます。

これでは、いけないと思います。そこで、感謝の気持ちをもつて、一人一人が元気よく気持ちのよい



あいさつをしていくことが大切です。

今日から私たちは、安全に気をつけながらも、元気よく気持ちのよいあいさつをしていきます。

お体に気をつけて、これからもぼくたちの見守りをよろしくお願ひします。

「四年生の成長」

四年時作品(現五年) 鮫島 英寿

「ドキドキ、ドキドキ」ああ、不安だ。いつも仲が良かつた親友とは、はなればなれ、おまけにクラスが初めての人もいっぱいいた。「これからどうやつて仲良くなろう。頭の中はそればかりだつた。

それから時間がたち、ぼくは、勇気を出し、話しかけてみた。すると

【宮日学園歌壇】

六年

石垣 魁皇



こいのぼり風にゆられてゆらゆらと桜とおよくカラフルなこい

の子は、むしをせず、いつしょに話してくれた。それからは、あの時の気持ちがうそみたいに消えて、クラスのみんなが友達のように思えてきた。仲はたがいを信じ合い、初めて生まれる宝だということが四年生になり、初めて気づいた。出会つて別れた友達のことを覚えていられるのは、心の宝だからというのがぼくの大きな四年生の成長だ。

このことから分かるのは、友達は、大切にすることだ。

「少しずつの意識」

六年 猪股 咲良

私は最近、世界でも有名になっている、あるニュースに取り組んでいます。それは「SDGs」です。2030年までの国際目標のことです、人間がずっと地球に住み続けられるように開発、発展するための十七の目標がかかげられています。

なぜSDGsに取り組んでいるかといふと、私たちの少しの意識が世界を変えられると思うからです。世界の人々一人一人が少しずつの意識を積み上げると、いつの間にかたくさんの人の意識になつて、明るい社会を手にできると思います。

最近は、マイバッグを使う人も増えているので、一人一人心がけているんだなあ、とうれしくなります。その一方で、軽い気持ちで環境を汚してしまる人もまだいます。私はそういう人たちに、気付いてもらえるよう、よりいつそうSDGsに協力すべきだと思います。それが私にできることだと思っています。

